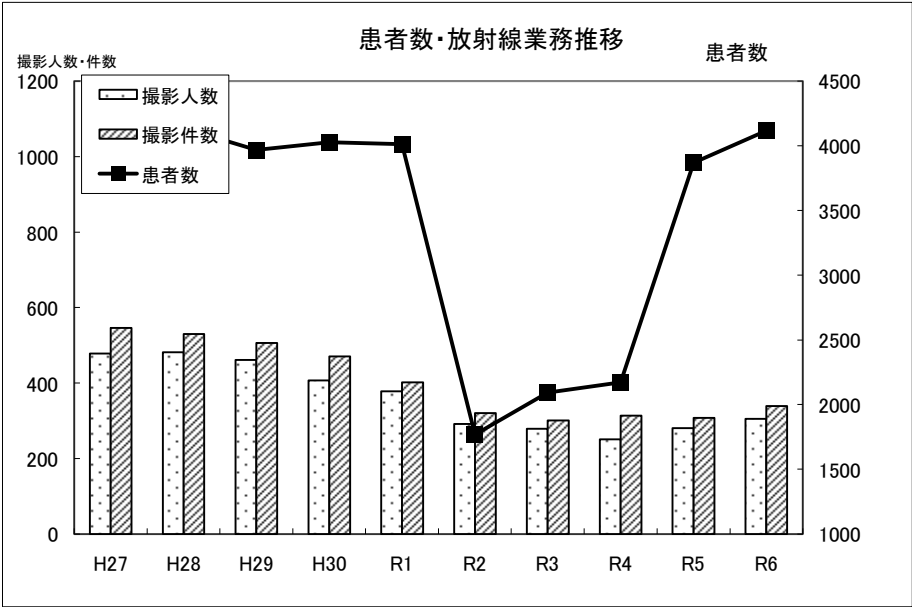


令和 6 年度 大野市休日急患診療所 放射線業務内訳

月	撮影人数計	内科	外科	小児科	検査件数計	胸部	腹部	頭部	脊椎	骨盤	肋骨	上肢	下肢	その他
4月	26	4	21	1	31	5	2	0	1	0	0	11	12	0
5月	27	4	21	2	33	6	2	0	3	2	2	8	10	0
6月	20	0	20	0	22	0	0	2	2	3	1	6	6	2
7月	18	2	15	1	18	3	0	0	1	0	0	8	6	0
8月	20	6	14	0	27	8	0	2	0	0	2	12	3	0
9月	28	3	24	1	29	5	1	1	1	1	3	11	4	2
10月	29	4	24	1	30	6	0	0	3	1	2	8	10	0
11月	37	14	22	1	42	12	6	1	2	1	3	7	10	0
12月	15	4	10	1	18	6	0	0	0	2	3	4	2	1
1月	27	8	16	3	27	9	1	1	2	1	1	10	1	1
2月	36	10	23	3	39	13	1	1	2	0	2	11	7	2
3月	22	6	14	2	23	7	0	0	1	2	1	5	7	0
計	305	65	224	16	339	80	13	8	18	13	20	101	78	8



放射線業務推移

	撮影人数	撮影件数	患者数
H27	478	546	3984
H28	481	530	4136
H29	461	506	3967
H30	407	471	4026
R1	378	402	4012
R2	292	320	1770
R3	279	301	2091
R4	251	313	2171
R5	280	308	3870
R6	305	339	4116

大野市休日急患診療所 撮影画像評価

2024年度 大野市休日急患診療所における年間撮影内訳（2024年4月1日～2025年3月31日）

	撮影人数	胸部	腹部	頭部	脊椎	骨盤	四肢関節	その他	総件数
内科・小児科	81	80	13	8	18	13	179	28	339
外科	224								
合計	305								

評価フィルム内訳 39人（56件） 期間 2024年7月1日～2024年8月31日

	撮影人数	胸部	腹部	頭部	脊椎	骨盤	四肢関節	その他	総件数
内科・小児科	10	9	0	0	0	0	2	0	11
外科	29	3	0	0	1	1	37	3	45

表1 撮影フィルム評価分類(対象件数:56件 全99枚)

評価	A	B	C	D
読影	支障なし	ほぼ支障なし	支障あり	問題あり
診療	支障なし	支障なし	やや支障あり	支障あり
再撮	必要なし	必要なし	出来れば再撮	再撮
該当件数	47	5	1	3

※複数評価あり

表2 評価BCDの内容

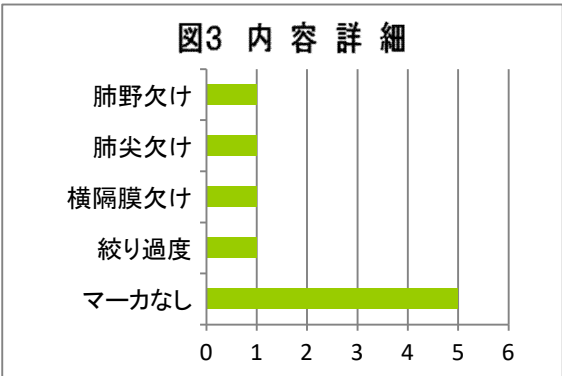
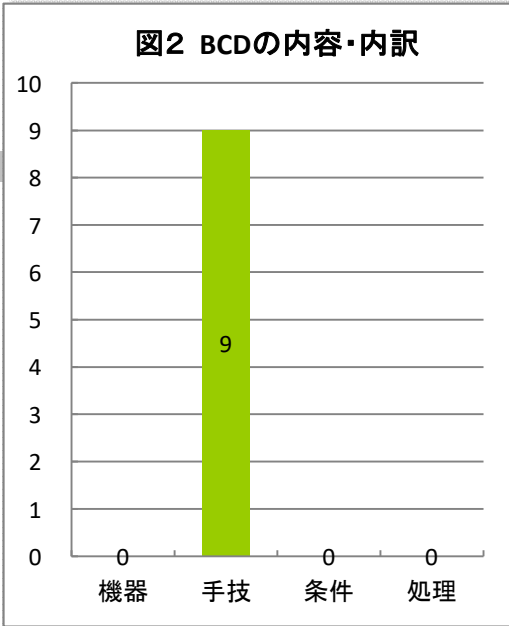
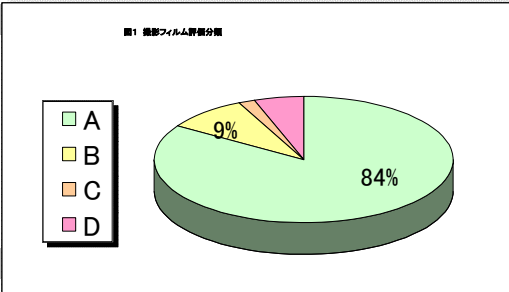
	機器	手技	条件	処理
コードNO.	NO. 100代	NO. 200代	NO. 300代	NO. 400代
該当件数	0	9	0	0

※ 機器:自現機以外の機器調整不備 手技:不適切な撮影手技 条件:不適切な撮影条件

処理:階調の問題 取扱:不適切なフィルムの取り扱い

表3 内容詳細(重複あり)

101センターレ				
102X線斜入				
103IP管理				
201ポジショニング不適				
202肺野欠け		1		
203肺尖欠け		1		
204横隔膜欠け		1		
205恥骨欠け				
210入射点不適				
220絞り過度		1		
221絞り不足				
230体動あり				
231呼吸ブレ				
242リス忘れ				
250着衣金具有				
252フロカ位置不適				
253マーカ不適				
255マーカなし		5		
301S値不適				
402階調不良				
Bの内訳	0	5	0	0
Cの内訳	0	1	0	0
Dの内訳	0	3	0	0



結果
前年度に比べ、総撮影患者数は272名から305名に増加し、総撮影件数は276件から339件へと増加した。

表1より 評価A47件、評価B5件、評価C1件、評価D3件であった。診断に支障をきたすような画像は3件あった。

表2.表3より 評価BCDの内訳はすべて手技によるもので、評価Bが5件、評価Cが1件、評価Dが3件であった。

表3より マーカなしの画像が一番多かった。

考察
今回は胸部写真の不適切画像が目立ち、その全てが再撮影が必要と思われるものでした。
いろいろな状況下ではあると思いますが、診断に影響が出そうな画像となってしまった場合は再撮影も考慮していただきたいです。